

大塚・伴南学区社会福祉協議会主催 防災士研修会が開催されました



令和2年7月26日(日)に防災士を対象とした研修会が大塚小学校体育館にて開催され、大塚・伴南学区社会福祉協議会に所属する防災士や来賓を含め66名が参加しました。未だ新型コロナウイルス感染の終息が見えない状況でもあるため、会場入口では、非接触体温測定や手指消毒、マスク着用やフェイスシールド装着など感染予防対策も入念に行われました。

まずは、開会にあたって社協・熊本会長よりご挨拶。続いて、来賓紹介と昨年度防災士を取得された方に、防災士バスタが貸与されました。

今回の研修は、明石高等専門学校の本塚助教と生徒の皆さんが作られた避難所運営ゲーム「チャレンジ」に挑みます。ただし、新型コロナウイルスの感染流行を受け、企画・進行・ゲームマスターを務めたA.CITYの防災士たちがアレンジした内容で進められました。

「チャレンジ」は、指定条件と資料を元に出題テーマを考える第1ステージと、ゲームマスターの出題に答える第2ステージの2部構成です。第2ステージで発表とチャレンジ権(2枚)でポイントが獲得できるため、どのチームも一所懸命に話し合い、知恵を出し合う真剣な姿が印象的でした。

結果は3チームが同点1位の結果に。「口頃から意識し、継続することが大切」と感想が寄せられました。

来賓の広島市や安佐南区の職員の方々にも、「とても熱心で知恵を絞った避難所運営が考えられている」とお褒めいただき、「運営のためには優先順位を考えることも必要」と今後の課題をご指摘いただきました。

最後に、質疑応答が行われ、熊本社協会長より総括いただいた後、全員で片付けて、解散となりました。

今回、会場内には、室内テントや電動簡易ベッドの展示も設けられ、参加された皆さんは興味津々で、使いたい心地の体験もされていました。

コロナ禍で大変な時期ではありますが、自然災害もいつ起こるかわかりませんが、備蓄品や環境整備などの備えも必要ですが、災害を意識する「心の備え」を防災士だけでなく、地域の皆さんとともに培い、「地域防災」につなげていきたいですね。



A.CITYの行事予定

- 8月 8日(土) 有価資源ごみ回収日
- 8月16日(日) 自治会定例役員会
- 8月22日(土) 有価資源ゴミ回収日
- 8月23日(日) H&T管理組合理事会

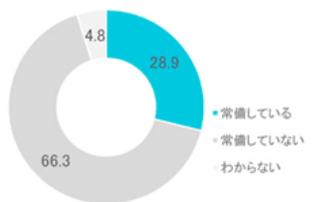
防災特集PART2

先月号に引き続き、今号も防災特集をお届けします。

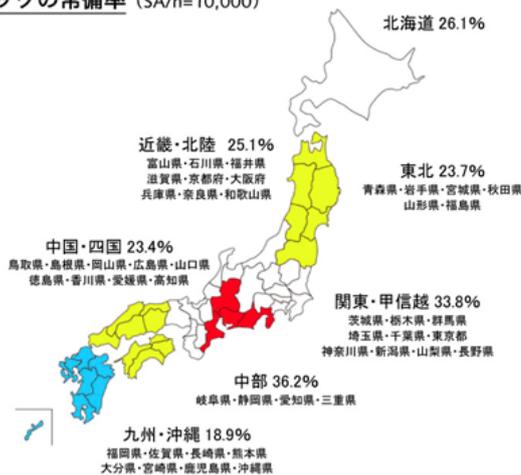
今回のテーマは「災害時用非常持ち出し袋」。ご近所さんの事例を交えながら、昨今の非常用持ち出し袋事情をレポートします。

災害大国ニッポン。しかし、防災バッグの常備率は3割以下

【図1】防災バッグの常備率 (SA/n=10,000)



	常備している	常備していない	わからない
全体 (n=10000)	28.9	66.3	4.8
北海道 (n=425)	26.1	68.7	5.2
東北 (n=688)	23.7	70.3	6.0
関東・甲信越 (n=3898)	33.8	61.2	5.0
中部 (n=1180)	36.2	59.1	4.7
近畿・北陸 (n=1852)	25.1	69.5	5.3
中国・四国 (n=850)	23.4	72.8	3.8
九州・沖縄 (n=1107)	18.9	77.8	3.3



冒頭から意外な数字で驚かれたでしょうか。上記の表は、2020年1月に全国1万人の10代〜60代を対象に行われたWEB調査の結果です。(出典：サントリー食品インターナショナル(株)ホームページ)

●自宅に防災バッグを常備しているのは約29%、「常備していない」のは約66%にのぼります。

●常備率が最も高いのは、「中部エリア」(約36%)で、最も低いのは「九州・沖縄エリア」(約19%)で2割以下です。

●防災バッグを準備した時期は「5年以上前」が約30%と最多。ただし、3人に1人は期限切れアイテムをそのまま常備。また、大雨や台風などの災害が頻発した「2019年7月以降」に常備した人は約13%にとどまっています。

内閣府防災担当や民間企業の調査でも明らかになっているのですが、これだけ災害の多い国でありながら、非常用持ち出し袋の普及率は、3人に1人が持っているかないかという低さなのです。

備えていたほうがいいのは頭ではわかってはいるけれど・・・という方もこの機会に備えてみてはいかがでしょうか？

非常用持ち出し袋を持っている人。いない人に理由を聞いてみました

意外に普及率の低い非常用持ち出し袋。今回、自治会広報部は、ご近所の方々に直接理由をお尋ねしました。

【準備している】

●阪神淡路大震災を経験した。壊れた家から出るときに母と何を持って逃げればいいのかとっさに判断できなかった。水とトイレがあればとても助かったのという経験から準備している。

(フオレスト・Fさん)

●最近、非常用持ち出し袋のセットがテレビショッピングで販売されていたので、災害が多い昨今だから購入した。

(イースト・Nさん)

【準備していない】

●何を買ったらいいかかわからない。そろえている人に聞くとわりと高額であった。年金生活の身だといつ以後回しになってしまふ。そもそも売っている店がわからない。

(パレット・Tさん)

●以前は準備していたが、何年も放置することになり。点検もしないので期限切ればかりになる。置き場所もとるし、災害時に持って出られないかもしれないから今はしていない。

(アリーナ・Yさん)

「ご近所さんの非常用持ち出し袋」

「中身を公開していただきました」

「ここでご近所さんが実際に準備している非常用持ち出し袋の中身を、30代・40代・70代の3世代の方に公開していただきました。ぜひ参考にしてみてくださいませぬ。」

【30代ご夫婦の持ち出し袋】

子ども会でも役員をされている方の持ち出し袋です。防災食や飲料水も、ちゃんと賞味期限ローテーションがしてあります。



↑中学生と小学生のお子様を持つこのご家庭の中身は、食品が充実。汎用性の高い新聞紙やブルーシート・ビニール袋がコンパクトにまとまっています。



↑肩に負担がかからない肩紐が幅広のリュック

【40代ご夫婦の持ち出し袋】

阪神淡路大震災を経験した方です。まとまった現金が準備してあるのが特徴。阪神淡路大震災の折に、銀行のATMが何日も使えず、現金が全くなかった親戚に、自分や友人のお金をかき集めて渡したとか。

物資や食料はある程度もらえるけれど、現金は難しいので準備しているそうです。



↑機能性食品を最低限。救急グッズと防寒対策用のコートやカイロも。携帯トイレも必須。

【70代ご夫婦の持ち出し袋】

20年以上前から、非常用持ち出し袋を常備されている方です。ご主人・奥様それぞれが1つずつ持ち出し袋を準備しているのが印象的でした。

高齢者は在宅避難がいちばん安全で効果的ではないかと考えているので、ライフラインが断たれた場合の在宅避難を想定した「自宅待機用防災セ

ット」を充実させているとのことでした。



↑夫婦それぞれの非常用持ち出し袋。一つしか持って出られなかったとしても、お互いの衣類や救急グッズは共有。忘れがちな筆記用具とメモ紙も。



↑在宅避難用の防災セット。水や電気・ガスがストップした時のことを想定したラインナップ

新型コロナウイルス時代 在宅避難を考える

7月26日(日)に開催された防災士研修会に参加し、多くの方が避難にいられた際、新型コロナウイルスに感染しない保証はないことを感じました。市の担当者からは「体育館内に避難できるのは、間隔を開けて30世帯で100名程度」との説明がありました。

避難者が多くなった場合、まさに「3密」に近い状態で、避難時の時間・天候によっては十分な対策ができない可能性がります。行政は、新型コロナウイルス感染症を踏まえた災害時の対応についてマニュアルを各自防災組織に示しています。その中で、避難所の過密防止については、災害の危険性のない親戚や知人宅等への自主避難することも呼びかけています。現在、無症状で陽性に判定が出る方が増えている状況では、避難所に頼るのは最後の手段でしょう。

また、A・CITYはアーバン・フォレスト・ステージの一部・パレットⅢ番館の裏山が土砂災害警戒区域・特別警戒区域となっています。

6月に降った雨で大きな被害はなかったものの、フォレストⅡ番館の裏山の樹木が倒木していました。

危険を感じたら山側の部屋から南側の部屋へ移動して様子をみるのも避難といえます。

さて、このような状況下で考えてみたいのが「在宅避難」。自宅でライフラインが復旧するまで、在宅で耐えれば感染などを防ぐことができます。しかし、地震で家具や家電が倒れたら意味がありません。家内を十分な対策を講じておく必要があります。

避難において、水と食料は必要不可欠なことは言うまでもありませんが、様々の情報を得る方法としてスマートフォン・タブレット・ラジオがあります。これはバッテリーが消耗すると使用することができません。A・CITY Yニュース第139号・第143号で紹介したソーラーで充電するラジオや大容量モバイルバッテリーを常備しておくことを強くお勧めします。

ライフラインが途絶えたと想定して1日でも避難生活を疑似体験してみると、何がなか(保存食・調理器具・水など)を具体的に考えることができます。万が一に備えて体験してみたいかがでしょうか？



↑1台で3台のモバイルが充電できる大容量バッテリー

広島市中区主催 自治会役員研修会にて講演

7月21日(火)、合人社ウエンティヒと・まちプラザにて、「地域の担い手確保のために」会長や役員を選任方法、モチベーションを高める方法を考える」をテーマに、中区町内会・自治会役員等研修会が開催されました。

A・CITY自治会より西田顧問が講師として招かれ、A・CITYの紹介や自治会の取り組みなどについて講演を行いました。

当日は、新型コロナウイルス対策のため、会場入り口では検温が行われ、会場内は参加人数を制限し、ソーシャルディスタンスをとりながらの開催となったため、中区の皆さんの参加は20名弱と少し寂しい感じがありました。

A・CITY自治会は2001年に発足以来、住民交流を中心とした活動から住民を守る活動へ変革してきたことや会長就任の条件として、「副会長の経験者」「任期は1期2年」「最長2期まで」と規約で定めていることをご紹介。「やる人がおらんから辞められんのだよー」と言う声をよく聞くが、後継者の育成をうまくすることを考えてみてはどうかと提案するとともに、令和のリーダーは、クセがなく感情のコント

ロールができて、明るく、例えば、どんなおかずにも合う「白ご飯」のような人材が良いのではないかと笑いをとる場面もありました。テンポの良い語り口で参加者を飽きさせることなく、最後は、加入率が低い自治会活動のあり方として会員・非会員に関わらず、住民共通のニーズを満たす活動を考えていくことなどの今後の課題にも触れて締めくくりました。

どちらの自治会・町内会でも同じような悩みを抱えておられますが、役員だけが頑張っている自治会・町内会ではなく誰もが関心を持ち、いざというときに地域で一体となって協力できると、そんなA・CITY自治会でありたいと改めて思う時間となりました。



ANCより 教養講座のご案内

新型コロナウイルスの影響でステイホームが推奨され「運動不足」が、懸念されます。

また一気に暑くなりましたので「熱中症」が心配されます。そこでANC(Aナイスクラブ)は「夏を元気で」をテーマに、包括支援センターの方に講師をお願いし、教養講座を開催します。A・CITYにお住まいの皆さん、ぜひお出かけください。お待ちしております。

○日時 8月19日(水) 14時より

○会場 管理センター 大ホール

○参加費 無料

○内容

※自宅でもなたでも出来る運動
(実技がありますので運動できる服装でおいでください)
※熱中症予防の「か・き・く・け」
「く」
(経口補水液の作り方と試飲があります。)

自治会行事等 中止のお知らせ

A・CITY自治会では、新型コロナウイルス感染の流行を考慮し、令和2年度の自治会行事は慎重に検討し、活動を行っています。

開催のリスクを考慮し、現時点で、既に中止が決定している行事をお知らせします。

■9月 敬老祝賀会(中止)
※対象者へ記念品を配布予定

■10月 大塚・伴南学区クリーン作戦(中止)

■11月 A・CITY秋祭り・文化祭(中止)
※代替え企画を検討中

大塚学区バドミントン大会(中止)

■12月 大塚・伴南学区防犯パトロール(中止)

自治会活動で無理なくできることは積極的に取り組んでいます。引き続き、皆さまのご理解ご協力をよろしく願っています。